

## カブト.txt

- ・ ペットボトルの中には、幼虫が3匹入っている。  
オスと思われるものと、メスと思われるもの。
- ・ マットは幼虫の食料（餌）。  
マットを補充しなくても不足はしないと思う。
- ・ ペットボトルのままで、マットの表面が乾いたら、霧吹きで水分補給する。  
水分補給は成虫がマットの表面へ出てくるまでの間。  
乾燥している日は、少なくとも2日に1回は乾き具合をチェックする。  
水が多すぎると溺死するので、表面が濡れたと思う程度。
- ・ ガリガリとペットボトルを齧る音がするが無視。  
カブトムシの幼虫は、硬い土の所まで潜ろうとする習性のため。
- ・ 幼虫がマットの表面へ出てきても放置。  
幼虫は、自分でマットの中へ潜る。
- ・ ガムテープで取り付けした蓋を取り除くと、幼虫が縁を乗り越えて外へ出て逃げるので、蓋は外さない。  
幼虫は力が強いので、ガムテープが剥がれていたら押し上げて出る。  
もしも、幼虫が出た場合は、指で掴んでペットボトルへ入れる。  
この時、こげ茶色の頭の顎で指を挟まれないように注意。
- ・ もう少しすると蛹室（蛹になるための部屋）を作るので、蛹室が壊れないように注意のこと。・・・蛹室は自分の糞でマットを固めて作る。  
ペットボトルを持ち歩かない。  
ペットボトルを落としたりして衝撃を与えない。  
ペットボトルをペコペコと変形させない。
- ・ マットの中の幼虫は、今は白いが、蛹室を作って暫くしたら茶色になる。  
茶色は蛹。  
蛹は蛹室の中で時々動いて姿勢を変える。  
蛹室が壊れないようにペットボトルの扱いに注意。  
蛹室が壊れたら羽化できない。  
茶色の蛹になったら、ペットボトルの蓋部分は取り外してもよい。  
取り外すときに蛹室を壊さないように。
- ・ 6月下旬から7月上旬頃  
蛹室の中の蛹が羽化して、ペットボトルの外から黒い成虫が見える。  
背中の中が柔らかいので、掘り出さないこと。
- ・ 羽化してから1週間から10日くらい後（翅が硬くなった頃を自分でみはらかって）に、カブトムシの成虫がマットの上に自分で出てくるので、掴まえて虫籠へ。

カブト.txt

黒い成虫が見えてからは、毎朝チェックして、マットの表面へ出ていたら捕らえて、餌を与える。

- ・成虫の餌は昆虫用のゼリー。  
食べ過ぎることはないので、餌不足にならないように与える。  
虫籠の下には、昼間隠れるためにマットを少し入れて、マットがカラカラに乾かないように時々霧吹きで水分補給。

[飼育の参考]

<http://iwakuni.main.jp/kabuto>

<http://iwakuni.main.jp/kabuto2>